箱ティッシュの1枚目って取りにくい

「箱ティッシュの1枚目って取りにくい」・登場人物表

莉央（１９）	大学一回生。愛美とシェアハウスしていた。
愛美（１９）	大学一回生。莉央とシェアハウスしていた

1.

1. 莉央の家・夜・内

黒背景に白文字で「47 日目」

部屋の中央にはちゃぶ台がありその上にパソコンとルーズリーフがある。

莉央、ちゃぶ台の下に足を突っ込み床に寝転がっている。

愛美（１９）、机から少し離れた莉央の頭側の床の場所で寝転がっている。

莉央、顔だけを横に向ける。

莉央　「うわっ、虫」

小さな虫が床を歩いている。

莉央、寝転んだ状態から少し身体を起こしてシッシッと虫を手で追いやる。

莉央　「どっかいけー」

方向転換してどこかへいく虫。

莉央、しばらくそれを目で追う。

莉央　「どっか行った。じゃいいや」

莉央、仰向けに寝転びなおしてスマホをいじる。

愛美　「いいんだ」

目線だけ愛美の方を見る莉央。

莉央　「うわびっくりした。いつからいたの」

目線をスマホに戻す

莉央　「じゃああんたが追い出せばいいじゃん」

愛美、少し身体を起こす

愛美　「……いいや。やっぱ殺生はよくないから」

愛美、寝転びなおす

莉央、スマホを触りながら会話

莉央　「めんどくさいだけじゃん絶対」

愛美　「いややっぱ私の実家お寺だし？」

愛美、寝転んだまま莉央の方を向き頬杖をつく

莉央　「普通はネタなところ事実なのがむかつくんだよな～」

莉央、スマホを弄るのをやめて愛美を指さす

莉央　「あと部屋にいる蜘蛛を追い出すんじゃなくて殺すこと前提なのがもう壊滅的に僧侶に向いてない」

愛美、ガッツポーズ

愛美　「邪魔なものは全て捻り潰す」

莉央　「発想が僧侶じゃないんだよな」

愛美　「あとさっきからお坊さんのこと僧侶っていうのやめない？」

莉央　「ごめんドラクエやり過ぎてうつっちゃった」

愛美　「常に時間ないない星人だったのに？」

莉央　「この頃は一日25時間やってるよ」

愛美　「思ったよりずっとだった」

莉央、起き上がってじっと愛美を見る

莉央　「てかさ愛美」

真顔の愛美

愛美　「何？」

数秒間沈黙

莉央、愛美の肩に手を置こうと手を挙げるが途中でピタリ留まり、そのまま下ろす

莉央　「箱ティッシュの1枚目ってめっちゃ取りにくくない？」

愛美　「何の話？」

莉央、寝転がる

莉央　「はーあ。めんどくさいからこのままねようかなあ」

ベッドを指さす愛美

愛美　「ベッドすぐそこなのに？」

莉央　「もう1ｍｍも動きたくない」

愛美　「今そのまま寝ればよかったのに」

莉央　「ちょっとダルかった」

愛美　「明日身体ギッシギシになっても知らないよ？」

黒背景に白文字で「４７日目」

2.　莉央の家・夕方・内

莉央　「人生結局そんなもんだよ」

愛美　「主語がでかいなあ」

莉央　「じゃあね。愛美。おやすみ」

愛美　「おやすみー」

莉央　「あ、愛美、ベッドで寝ていいよ？」

愛美　「わたしはここがいいの」

莉央　「そう」

少し沈黙

莉央　「まなみ」

愛美　「んー？」

莉央　「電気、つけて寝ていい？」

愛美、微笑む

愛美　「よかろう」

莉央、微笑む

莉央　「ありがとう」

莉央、目を閉じる

暗転

莉央、家のドアを開ける

莉央　「あーーーっ全身が軋む。ベッドで寝りゃよかった」

愛美、昨日と同じ位置に寝転がっている

愛美　「おかえり。言った通りじゃん」

莉央、靴を脱ぎながら驚いた顔で愛美を見つめる

愛美、思わず笑いだす

愛美　「どういう顔？」

莉央、微笑む

莉央　「ただいま」

キッチンへ行く莉央

それを見る愛美

テーブルでみかんを向剝き始める愛美

莉央　「愛美ー」

冷蔵庫を物色する莉央

愛美　「何？」

莉央　「何食べたい？」

テーブルの上にみかんの皮がぶちぶちになって散乱している

愛美　「ピザ！」

莉央　「はいよー」

冷蔵庫を勢いよく閉め、ウーバーイーツに電話をかけて

ピザを頼む莉央

莉央　「もしもし！ウーバーイーツですか？！」

莉央、テーブルにもどってくる

莉央　「こんなにみかんの皮剥くのヘッタクソなことある？」

愛美　「ごめぇん」

インターホンが鳴る

ボタンを押して応じる莉央

莉央　「はあい」

配達員　「ウーバーイーツでぇぇぇっす！！」

莉央　「はーい」

ボタンを押して通話を切る莉央

愛美の方を向く莉央

莉央　「ピザ届いたわ」

愛美　「早くない？」

莉央　「受け取ってくる」

玄関へ赴く莉央

それを静かに見つめている愛美

ピザを持って戻ってくる莉央

愛美　「てかネットで頼んで置き配にすればいいじゃん」

莉央、苦笑いしながらピザを持って机の傍に立っている

莉央　「こういう時じゃないと人とコミュニケーションすることないからさ」

愛美、莉央を見た後にゆっくりとミカンの皮を片付けて捨てる

愛美　「あれをコミュニケーションとするなよ」

莉央、テーブルの中央に置いてある箱ティッシュをピザの箱で押してどかしながらピザをテーブルに置く

愛美　「てか大学でも人と喋るじゃん。グループワーク多いのに…

…？」

愛美　「あれ？」

箱ティッシュ、机から落ちる

莉央　「ごめんティッシュ落ちた。拾ってくれる？」

愛美　「あ……うん」

ティッシュを拾って机の端に置く愛美

莉央のスマホにメッセージが届く。スマホの日付は３／４

莉央　「ほら、ピザ食べよ」

口を開いてなにか言いかける愛美

莉央　「食べないの？」

愛美　「……いや、食べる」

二人、黙々とピザを食べる

愛美　「ピザあるし折角だし映画とか見る？」

Netflix をつける莉央

莉央　「ミッドサマーとか？」

愛美　「よりによってそれ攻める？」

莉央　「……あのさ、まなみ」

愛美、莉央の方を向く

愛美　「何？」

少し沈黙

莉央　「オードリーの若林って全顔面偏差値のド平均って感じしない？」

愛美、真顔で莉央を見つめる

愛美、真顔でこくりと頷く

愛美　「ちょっと分かる」

3.　莉央の家 23:30 くらい 内

黒背景に白文字で「48 日目」

昨日と同じ位置に寝転がってだらける愛美

机の下に足を突っ込み仰向けに寝転がって顔にノートパソコンを被っている莉央

莉央　「私は風呂場に詰まった排水溝の赤カビです」

愛美　「突然何？」

莉央　「書類が終わらない」

愛美　「進捗は？」

莉央、ノートパソコンを愛美に見せる

ノートパソコンは真っ白

莉央　「真っ白」

愛美　「提出期限は？」

莉央　「明日」

時計を見る愛美

時計は23時30分をさしている

愛美　「あと30分じゃん」

愛美、顔の前でパチンと手を合わせる

愛美　「ご愁傷さまです」

莉央、パソコンを揺らす

莉央　「諦めないでよぉ～」

愛美　「いや、てかさ」

莉央、愛美、セリフを一斉に言う

莉央　「昨日ピザ食べながら映画なんて見なきゃ良かった」

愛美　「昨日ピザ食べながら映画なんて見なきゃよかったんじゃん」

莉央　「本当にね！！」

愛美、ため息をつく

愛美　「本当に莉央は大事なことあと回しにするね」

莉央、ため息をついて身体を起こす

莉央　「そうだよなぁ」

莉央、愛美にむかって微笑む

莉央　「いつまでも逃げてばっかじゃ駄目だよね」

キョトンとした顔をする愛美

愛美　「そうだよ？」

少し沈黙

莉央、微笑む

莉央　「ごめんやっぱもうちょっとサボるわ」

愛美　「おい」

4.　莉央の家 23:57 分くらい 内

莉央、黙々とパソコンを打っている

愛美、スマホをさわっている

愛美　「てかさ」

莉央、パソコンを打ちながら答える

莉央　「んー？」

愛美、莉央を見る

愛美　「それってなんの書類なの？」

莉央　「……なんだったかな」

愛美　「そんなわけないでしょ」

愛美　「さっきあなたのスマホの日付、見たの」

ここからは愛美の回想

莉央のスマホにメッセージがきてスマホがつく

3/5の日付

目を丸くして驚く愛美

回想終わり

愛美　「おかしいじゃん！！」

愛美　「だって今日は」

パソコンを打つ手を止める莉央

愛美　「1/14のはずでしょ！？」

愛美　「もし今、3/5が正しい日付だとしたら」

愛美　「莉央はなんでそこまでして嘘をつき続けたの？」

莉央、愛美を見て微笑む

莉央　「愛美」

肩で息をする愛美

莉央　「疲れてるんだよ、愛美」

莉央　「もう寝な？」

不服そうにベッドに一瞬向かおうとする愛美

途中でピタリと止まる

愛美　「いや、やめとくわ」

莉央　「そこは素直に寝ろよ」

莉央、時計を見る

時計、23時59分を指している

莉央　「……ねぇ、愛美」

愛美　「……何」

声が震えている莉央

莉央　「ま、まなみはさ」

愛美、莉央を見る

莉央の口が動きかける

カチリと音が鳴って時計の針が動いて0時になる

莉央　「なんで私の前にもう一度現れたの？」

黒背景に白文字で「49日目」

愛美　「はあ？」

莉央　「だって！」

回想：家に帰ってくる莉央

莉央　「愛美は！！」

回想：目を見開いて固まる莉央

莉央　「1ヶ月前に死んだじゃん！！！」

回想：腰を抜かして座り込む莉央

回想終わり

目を見開いて驚く愛美

机の上を指さす莉央

莉央　「しかも！！」

莉央、涙目

愛美、俯いて頭を抱える

愛美　「あぁ…」

莉央　「わざわざ！！」

愛美、苦しそうな顔で頭を抱えながらつぶやく

愛美　「痛い…」

莉央　「この机の上で！！」

愛美、顔をあげて小声でつぶやく

愛美　「思い出した……」

回想：莉央、呆けた表情で涙を流す

回想終わり

莉央　「首を吊ってこの世から逃げた」

莉央　「どうして今更？」

愛美　「今日でさぁ」

愛美、涙目

愛美　「49日目だよね」

黙る莉央

愛美　「私が死んでから」

莉央　「うん」

涙を流す愛美

愛美　「死んだあと、私たちは49日しか現世にとどまれない」

愛美　「最後の三日くらいはあなたに会いたかったの」

シーン1の愛美が初めて登場したところの回想

莉央　「最初あなたを見た時、私、精神がおかしくなって幻覚を見てるのかと思った」

シーン2の冒頭の回想

莉央　「だから、次の日にいなくならなかったのを見て奇跡だと思ったの」

愛美、笑う

愛美　「あの時の莉央の顔ったら」

莉央　「何回も何回も言おうとしたけど」

愛美、笑うのをやめる

莉央　「怖くて、何か言及したら何もかも無くなっちゃいそうで、」

莉央、涙を流す

愛美　「やりたくないことを後回しにする癖、本当に変わってないね」

莉央　「どの口が！」

愛美　「ごめんね、莉央」

愛美　「あたしね、あなたがいない世界なんてまっぴらだったの」

思わず愛美の手を握ろうとする莉央

愛美の手を莉央の手がすり抜ける

ショックな表情をする莉央

愛美　「ごめんね」

ぼろぼろと涙をこぼす莉央

莉央　「うわーーーーーん」

愛美　「ごめんね、ごめんね」

愛美も涙を流しだす

愛美ナレ　「今泣いているこの子の、手を握ってあげられたら、抱きしめてあげられたら」

愛美ナレ、声が震える

愛美ナレ　「どれだけよかっただろうか」

ぼろぼろと涙を流す愛美

愛美　「うわーーーーーーん」

5.　莉央の部屋　０：１０くらい

少し落ち着いた二人

愛美　「ねえ、莉央」

莉央　「なに？」

愛美、莉央の手の上に自分の手を重ねて握る（だが、手はすり抜ける）

涙目の愛美、声は震えている

愛美　「莉央、私、あなたがいない世界なんて耐えられない」

愛美、俯く

愛美を見つめる莉央

莉央、目線を下に落とす

重なり合っている自分たちの手（愛美の手は透けている）

ゆっくりと視線を元に戻す莉央

ゆっくりと大きく深呼吸する莉央

莉央　「しょうがないなぁ」

顔をあげる愛美

微笑む莉央

莉央　「愛美は私がいなきゃ駄目だもんね」

愛美、涙を流す

愛美　「いや…ごめん待って。そんなことを言わせたいわけじゃ」

愛美　「私は、あなたが、幸せに生きてくれればそれで」

真顔になる莉央

愛美の台詞を遮る形で発言する

莉央　「私はね、愛美」

涙をぼろぼろとこぼす莉央

莉央　「貴方がいなくても滞りなく回る世界が憎い」

莉央　「憎くて憎くて、息が詰まって死にそうなの」

愛美　「…分かった」

ベランダをあける愛美

莉央、立ち上がる

愛美、莉央の方に戻る

横に並んで立つ二人

愛美　「行こうか」

莉央　「うん」

助走をつけて走り出したところで暗転

ＳＥ）グシャッ（人が落ちてつぶれたような音）

6.　　莉央の家　0：00　内

莉央、シーン1と同じ状態で目を覚ます

莉央、息が荒い

莉央、数秒そのまま動かない

莉央、自分が涙を流していることに気づき手で拭う

莉央、ゆっくりと身体を起こす

莉央、ゆっくりと横を向く

微笑んでいる愛美

莉央　「愛美！私ね、本当に怖い夢を見たの！」

微笑んでいる愛美

莉央　「愛美がね！いなくなっちゃう夢でね！」

微笑んでいる愛美

莉央　「あーでもよかった夢で！」

莉央の視線の先にはだれもいない

何もいない空間に向かって喋りかけている莉央

莉央　「もしそんなことあったら私」

笑いながら泣いている莉央

莉央　「辛くって死んじゃうよ！」

暗転

エンドロール「猿芝居／なとり」

end